

群 教 セ	E03 - 03
	平25.249集
	小・学級経営

よりよい人間関係を築く学級づくりの工夫

— 受容・共感・自己尊重に視点を当てた授業実践を通して —

長期研修員 坂口 延弘

キーワード 【学級経営 人間関係づくり 受容的態度 共感的態度 自己尊重する態度】

I 主題設定の理由

児童がよりよい考えを出そうと話し合ったり、互いに学び合おうとしたりしている時に、相手の気持ちを無視した言動が見られたり、発言や存在を否定されたりするような場面が見られる集団では、学び合いや話し合いをしようとしてもなかなか難しい。「どうせ何か言っても否定されるから、だまっていよう」「問題やトラブルが起きたとき、どうやって解決すればいいかわからない」など、戸惑う児童がしばしば見られる。小学校学習指導要領においても、「日ごろから学級経営の充実を図り、教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を育てるとともに児童理解を深め、生徒指導の充実を図ること」と示されている。この学級経営の充実において、学級の雰囲気や人間関係が、児童の人間形成に与える影響はとても大きい。また、よりよい人間関係を育てることが、相互理解的な関係づくりや信頼と尊重の関係づくりにつながる。このよりよい人間関係が築かれていく中で、児童は協力し合ったり、問題を解決したり、考えを深め合ったりするのである。これらのことは、いじめ問題対策推進事業（平成25年）の「よりよい人間関係づくり」や群馬県教育振興基本計画（平成21年3月）のいじめ不登校対策の推進における「児童生徒の人間関係力の育成」にも示されている。

そこで、「相手が何を言おうとしているかをしっかりと受け止めて聞くこと」「うれしいこと、楽しいこと、悲しいこと、苦しいことなどを相手の気持ちになって考えること」「相手の気持ちも自分の気持ちも大切に思うこと」がよりよい人間関係を築く上で大切であると考えた。これらは受容・共感・自己尊重する態度であり、これらの態度の育成は、学級活動だけに位置付けて単発的に身に付けさせるものではない。学校教育の指針(平成25年群馬県教育委員会)の「授業を通じた人間関係づくりの推進」にあるように、教科やふだんの生活においても人間関係づくりの推進が必要である。気の合う仲間だけでなく、いろいろな考えをもった児童が交流する場を設けることで、相手のことを思いやったり、トラブルがあっても自分たちで解決できたりする力を身に付けることができる。これらのことを通して、相手の考えを認め、自分の言いたいことも言える関係を集団の中に作ることで、よりよい人間関係が築けるのではないかと考える。

以上のことから、受容・共感・自己尊重する態度を育成し、特別活動の時間だけでなく、教科の学習においてもそれらの態度を児童が生かしながら学び合うことによって、自分たちでよりよい人間関係のある学級集団を築いていけるのではないかと考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

互いに考えを述べ合ったり、意見を交流させたりする場面において、受容・共感・自己尊重する態度を育成し、これらの態度を児童が生かしながら学び合うことによって、よりよい人間関係のある学級集団を築くことができる。

III 研究の見通し

1 受容的・共感的態度の育成について

児童が、相手の話を聞いたり自分の話をしたりする場面で、「あ：あいてを見て話す、い：いいところを見つけて相手に伝える、う：うなずきながら聞く」を意識した『あいう』を活用することによって、相手の思いや考えを理解しながら、自分の思いや考えを伝える受容的・共感的態度が育成されるであろう。

2 自他を尊重する態度の育成について

児童が、相手が言いたいことは何かをよく考えて自分の言いたいことを表現する場面で、「相手のことも自分のことも大切にすること」を意識した『さわやかさん』を活用することによって、自他を尊重する態度が育成されるであろう。

3 児童同士がよりよい人間関係を築くことについて

児童が、共通の目標に向かって協力したり、問題解決したりする場面で、『あいう』と『さわやかさん』を活用しながら学び合うことによって、児童同士がよりよい人間関係を築くことができるであろう。

IV 研究内容の概要

本研究では、『あいう』と『さわやかさん』を児童が活用し、学び合うことによって、児童同士でよりよい人間関係を築ける学級づくりができることを目指した。まず、見通し1において、互いに自分自身の趣味や興味のあることなどを語り合う場面を設定し、『あいう』を用いて、相手の話をよく聞き、相手の気持ちを受容的・共感的に理解する態度を育成する授業実践をおこなった。次に、見通し2において、トラブルを解決する場面を設定し、『さわやかさん』を用いて、相手が言いたいことは何かをよく考えて、自分の言いたいことを表現するという自他を尊重する態度を育成する授業実践をおこなった。最後に、見通し3において、学級活動で、『あいう』と『さわやかさん』を用いて、協力することの大切さを体験的に学ぶという授業実践をおこなった。また、『あいう』と『さわやかさん』を教科に生かすという視点から、児童同士が互いに交流する場面を設定した授業実践をおこなった。具体的には、一つのモデル提示として、算数科において、児童が学び合いながら問題解決をしたり、問題を作成し互いに解き合ったりする場面で、『あいう』と『さわやかさん』を活用した授業実践をおこなった。

V 研究のまとめ

1 成果

- Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）の学校生活意欲プロフィールでは、学習意欲・人間関係・学級の雰囲気すべての項目で向上が見られた。また、学級満足度尺度では、プロットが右上の満足群に集まった。これらのことから、本研究がよりよい人間関係を築く学級づくりに有効であった。
- 『あいう』と『さわやかさん』という児童にも分かりやすい内容構成とネーミングを用いたことで、受容・共感・自他尊重する態度が具体化され、児童に定着されやすくなった。
- 児童の感想から、温かい言葉がけができたり、肯定的に相手の話が聞けるようになったりした児童が多く見られた。学校生活以外のふだんの生活にも受容・共感・自他尊重する態度を生かしてよりよい人間関係を築こうとする様子が見られた。
- 今回は、人間関係づくりに関する研究であったが、Q-Uの学校生活意欲プロフィールの学習意欲の項目の数値が上がったことや算数の単元テストでは、努力を要する児童がいなかったことから、本研究が、学習意欲や学習内容の定着にもつながったと言える。

2 課題

- Q-Uで、プロットが下がってしまった児童がいたので、よりよい人間関係づくりが、学級集団の育成という視点のみに偏らないように、個人への支援も視野に入れた対応策や目標設定が必要である。
- 今回は4学年で授業実践をおこなったが、児童の発達段階も考慮して、小学校6年間を見据えた系統的・継続的な受容・共感・自他尊重する態度の育成が必要である。

VI 研究の内容

1 よりよい人間関係を築くことについて

よりよい人間関係が築けている状態とは、「相手が何を言おうとしているかしっかりと受け止めて聞くことができる関係が児童相互にある（受容）」、「相手のうれしいこと、楽しいこと、悲しいこと、苦しいことなど、相手の気持ちになって考えられる関係が児童相互にある（共感）」、「相手の気持ちを汲み取りながら、自分の思いも相手に伝えられる関係が児童相互にある（自他尊重）」状態のこととした。具体的な姿として以下に学級像と児童像を示す。

(1) よりよい人間関係を築いている学級像

- 人と一緒に生活する上でのルールやマナーをきちんと守ろうとする雰囲気がある
- 自分の存在や発言を否定されることなく、発言が認められ、発言しやすい雰囲気がある
- トラブルが起きたとき、又は起きそうなとき、相手と自分の考えを大切にしながら、折り合いを付けてトラブルを解決しようとする雰囲気がある

(2) よりよい人間関係を築いている児童像

- 相手のことを考えて、行動できたり、ルールや決まりを守ったりすることができる。
- 相手の思いを考えながら話を聞いたり、自分の考えを自信をもって、堂々と発表したりすることができる。
- けんかやトラブルがあっても折り合いを付けて解決できる。

2 受容・共感・自他尊重に視点を当てた授業実践について

(1) 受容的・共感的態度を育成する『あいう』について

よりよい人間関係を築く上で、相手を傷つけたり、児童が自分の存在や発言を否定したりされたりすることなく、「相手の思いや考えを理解しながら、自分の思いや考えを伝える」ことが大事であると考ええる。

そこで、あなたを受け入れていますということを態度で示せるように「あ：相手を見て話す」、相手を受け入れて肯定的に接するという態度で示せるように「い：いいところを見つけて相手に伝える」、あなたの話をきちんと聞いていますということを態度で示せるように「う：うなずきながら聞く」を設定した。児童に受容的・共感的態度が日常的に育成されるようにという目的から、分かりやすいネーミングとして、『あいう』（図1）とした。

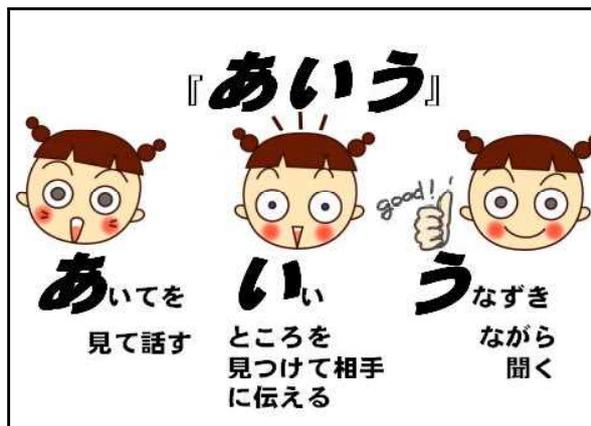


図1 受容的・共感的態度を

育成する『あいう』

具体的なには、『あいう』を使った場合と使わなかった場合のロールプレイから、「互いに気持ちよく過ごせる言葉やしぐさ（態度）」について考える時間を授業に取り入れる。例えば、「互いに気持ちよく過ごせる言葉」として、「大丈夫だよ」「待ってるよ」「気にしないでいいよ」「すごい」「一緒にやろう」などの言語としての言葉がけがあったり、「互いに気持ちよく過ごせるしぐさ」として、「手をたたいて喜ぶ」「笑顔で聞く」「遠くからでも手を振ってコミュニケーションをとる」など非言語としての態度について児童が考えたりする。また、実際に『あいう』を使って交流する場面を設ける。この『あいう』は教室に掲示し、児童にふだんから意識できるようにする。

(2) 自他を尊重する態度を育成する『さわやかさん』について

よりよい人間関係を築く上で、トラブルが起きたとき、又は起きそうなとき、どのように解決するかという能力も大事であると考え。相手が言いたいことは何かをよく考え、自分の気持ちも大切にすることを考える。相手とよりよい人間関係が築かれていくと考える。

その際、「相手を無視する、攻撃的・威圧的言動をする、自分の考えを押し通す」というような「いばりやさん」であったり、「自分は本当は嫌だと思っているのに言えなかったり、いつも自分のやりたいことや言いたいことがうまく相手に伝えられなかったりする」ような「えんりょやさん」であったりすると、よりよい人間関係を築くことは難しい。

そこで、相手も自分も大切にするという自己尊重する態度を育成する『さわやかさん』を取り上げる（図2）。この『さわやかさん』は教室に掲示し、児童にふだんから意識できるようにする。相手の話をよく聞いてから自分の考えを言ったり、折り合いを付けたりするという姿勢は大切であるという考えから、受容的・共感的な態度を育成する『あいう』をおこなってから、自己を尊重する態度を育成する『さわやかさん』を取り上げる。

(3) 『あいう』と『さわやかさん』を授業に生かす場面について

相手の考えを途中で遮ったり、否定したりすることなく、相手がどんな考えをもっているのか、最後まできちんと聞くことが大事である。相手の考えを受容的・共感的に聞いた上で、自分の考えを話すことが大事である。そして、相手と自分の考えを交流することで、互いの考えを認め合ったり、折り合いを付けたりしながら、よりよい考えに練り上げていく。こうしたことを繰り返し授業でおこなっていくことで、相手の考えを認め、自分の考えも認められながら、よりよい人間関係を築いていくのである。ここで、児童がどのように互いの考えを認め合ったり、折り合いを付けたりすればよいか、具体的な様子を《相手と自分の考えを交流する場面での思考・判断》とし、以下の①～③に示す。



図2 自己を尊重する態度を育成する『さわやかさん』

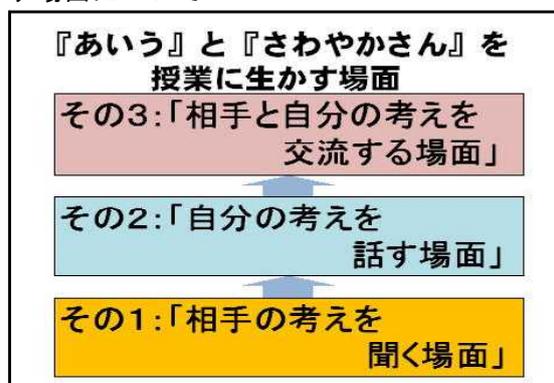


図3 『あいう』と『さわやかさん』を授業に生かす場面

《相手と自分の考えを交流する場面での思考・判断》

① 相手と自分の考えを交流する中で、自分の考えを確認する

「最初は自分はAという考えで、他の人の考えを聞いたところ、やっぱり自分はAでいこう」

② 相手と自分の考えを交流する中で、自分の考えを見直す

「最初は自分はAという考えで、相手はB。〇〇だからBという考えはいいな。よし、Bに変えてみよう」

「最初は自分はAだと思っていたけど、人を見てBをやってみたらBの方がうまくいくな。よし、Bに変えてみよう」

③ 相手と自分の考えを交流する中で、折り合いをつける

「最初は自分はAという考えで、相手はB。Aのよいところ、Bのよいところを両方取り入れてCにしてみよう」

3 先行研究と本研究とのつながり

児童生徒の友人関係に関する研究（国立教育政策研究所：「学校不適応・教育相談」望ましい人間関係を育てるための指導・援助に関する研究）（2001）によると、「子どもたちが、小規模で閉鎖的な

友人関係に居場所を見い出し、少人数の固定的な関係が強くなってきている」ことが書かれている。ここでは、限られた少人数の特定の仲間関係に異常に気を遣うが、その仲間の外の関係には極端に無関心で、無神経な行動をとる特徴をもつようになることを示している。このような仲間からの圧力(ピア・プレッシャー)に怯えながら、通じ合える者との狭い関係の中で、本来多様な人間関係で育まれるべき人間関係づくりの能力が低下していると考えられる。子どもたちは、社会の変化や時代の雰囲気の影響され、気の合う少数の仲間との居場所に安心し、それでいて本音をうまく隠し、まわりから浮き上がらないように気遣いしながら生活している。そこで、積極的に人間関係づくりにかかわる指導・援助が学校現場でも必要になってきている。本研究では、気の合う仲間だけでなく、いろいろな考えをもった児童が交流する場を設定すること、トラブルを自分たちで解決できるような力をつけることが大事であると考えた。

また、いじめの防止のための措置(いじめの防止等のための基本的な方針：文部科学省)(2013)では、「いじめに向かわない態度・能力の育成として、他人の気持ちを共感的に理解できる豊かな情操を培い、自分の存在と他人の存在を等しく認め、互いの人格を尊重する態度を養う」ことを挙げている。自他の意見の相違があっても、互いを認め合いながら建設的に調整し、解決していける力や、自分の言動が相手や周りにどのような影響を与えるかを判断して行動できる力など、児童生徒が円滑に他者とコミュニケーションを図る能力を育てることが大事である。これらは、本研究における受容・共感・自他尊重する態度の育成につながる。

4 実践協力校の実態

(1) Q-Uのアンケートから

Q-Uのアンケートから、良好な姿として以下が挙げられる。

- 「クラスの人たちは、あなたに声をかけてくれたり、親切にしてくれたりする」
- 「クラスには、いい人だなどと思う友達や、すごいなと思う友達がいる」

Q-Uのアンケートから、課題として以下が挙げられる。

- 「クラスでグループを作るときなどに、すぐにグループに入れないで、最後のほうまで残ってしまう児童がいる」
- 「授業中に先生の質問に答えたり、自分の考えや意見を言うのは苦手である」
- 「運動や勉強、係活動や委員会活動、趣味などでクラスの人から認められる(すごいなど思われる)ことがあまりない」

(2) 受容・共感・自他尊重に関する自作アンケートから

受容・共感・自他尊重に関するアンケートとして、本研究の『あいう』に関わる部分、『人と交流する』ことに関わる部分、『さわやかさん』に関わる部分について児童の授業実践前の実態把握と授業実践後の児童の変容を把握するために自作アンケートを作成し、活用した(図4)。

受容・共感・自他尊重に関する自作アンケートから、良好な姿として以下が挙げられる。

- 「うなずきながら相手の話を聞くことが上手である」

受容・共感・自他尊重に関する自作アンケートから、課題として以下が挙げられる。

- 「相手とどう会話をすればいいか困っている」

Q-Uのアンケートや受容・共感・自他尊重に関する自作アンケートの結果から、友達のよいところを見つけている児童が多いことが分かった。ただし、人との交流という点では、どのように声をかけてよいか分からなかったり、相手のよいところは見付けられるが、自分のよいところを自分で認めたり、他から認められたりすることが少ないという実態が分かった。

良好な項目をさらに伸ばし、課題を改善するために、本研究の『あいう』の特に「い」の部分の相手のよいところを見付けようとする点や『さわやかさん』の自他尊重の自分の思いも大切に相手と関わるという点を重視していく。

『人と会話すること』について聞きます。もっとも近いもの『1つ』にマークして下さい。

	近いもの『1つ』にマーク			
	1点	2点	3点	4点
あいての顔を見て会話をすることができますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
あいてのいいところを見つけながら会話をすることができますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
うなずきながら人の会話を聞くことができますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
あいてにしつ問したり、感想を言ったりしながら会話をすることができますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

あなたは、『どのタイプ』ですか。もっとも近いもの『1つ』にマークしてください。

	近いもの『1つ』にマーク			
	1点	2点	3点	4点
あなたは、『どのタイプ』ですか。もっとも近いもの『1つ』にマークしてください。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

図4 受容・共感・自己尊重に関する自作アンケート

5 研究構想図



Ⅶ 実践の計画と方法

1 授業実践の概要

対象 協力校 小学校 第4学年（平成25年10月10日～平成25年11月7日 6時間）

単元名	ねらい	見通しとの関連
授業実践1（特別活動：1時間） よく聞きよく話しながら、人と上手に関わろう	「無関心な聞き方」と『あいう』を使った聞き方の対比から、真剣に聞くこと、聞いてもらうことを体験し、そのよさを実感することで、児童の受容的・共感的態度を育成する。	見通し1
授業実践2（特別活動：1時間） 自分も相手も大切に、人と上手に関わろう	「自分も他の人も大切に」という『さわやかさん』を活用することによって、自他を尊重する態度を育成する。	見通し2
授業実践3-1（特別活動：1時間） 『あいう』と『さわやかさん』を使って、受容・共感・自他尊重を大切にしながら、互いの考えを上手に交流する。	『あいう』と『さわやかさん』を使って、複合図形のいろいろな解き方について意見を交流する。また、複雑な図形に関する作問をし、『あいう』と『さわやかさん』を使って、互いに解き合う活動を通して、受容・共感・自他尊重する態度を養ったり、学習内容の定着を図ったりする。	見通し3
授業実践3-2（教科：算数：3時間） 広さを調べよう		

2 検証計画

見通し			検証の観点	検証の方法
1	場	手だて	目指す児童像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業実践1の前と授業実践3の後のQ-Uと自作アンケート（受容・共感・自他尊重尺度：SQSで集計）を実施し、学級満足度の分布を分析する。 ○ 児童の記述内容から児童の変容や研究の成果と課題を分析する。 ○ 担任の教員に児童の変容や学級の変容を聞いて分析する。
	授業実践1 特別活動 (1時間)	『あいう』	受容的・共感的態度を身に付けることができる。	
			相手の思いや考えを理解しようとする努力、自分の思いや考えを伝えたりする受容的・共感的態度を身に付けることができたか。	
2	場	手だて	目指す児童像	
	授業実践2 特別活動 (1時間)	『さわやかさん』	自他を尊重する態度を身に付けることができる。	
			相手が言いたいことは何かをよく考え、かつ自分の言いたいことも表現できる自他を尊重する態度を身に付けることができたか。	
3	場	手だて	目指す児童像	
	授業実践3 特別活動 (1時間) 教科（算数） (3時間)	『あいう』 『さわやかさん』	受容・共感・自他尊重を生かして人と交流することができる。	
			互いの思いや考えを理解し合い、受容的・共感的態度、自他を尊重する態度で人と交流することができたか。	
*この研究では、一つのモデルとして、算数科で研究を提案するが、様々な教科で実施可能である。				

よりよい人間関係を築く学級づくり

3 評価規準

単元名	評価規準
授業実践1 (特別活動：1時間) よく聞きよく話しながら、人と上手に交流しよう	◇『『あいう』を使って、受容的・共感的態度で人と交流しようとしているか。 (活動の様子、発言、ワークシートの記述)
授業実践2 (特別活動：1時間) 自分も相手も大切にして、人と上手に交流しよう	◇『『さわやかさん』を使って自他共に尊重する態度で人と交流しようとしているか。 (活動の様子、発言、ワークシートの記述)
授業実践3-1 (特別活動：1時間) 『『あいう』と『さわやかさん』を使って協力して問題を解決することの大切さを学ぼう	◇『『あいう』と『さわやかさん』を使って、受容・共感・自他尊重を大切にしながら交流しているか。 (活動の様子、発言、ワークシートの記述、交流の様子)
授業実践3-2 (教科：算数：3時間) 広さを調べよう	◇正方形や長方形に分けて考えたり、正方形や長方形を使って全体から一部を引いて考えたりしているか。 (活動の様子、発言、ワークシートの記述、交流の様子) ◇『『あいう』と『さわやかさん』を使って受容・共感・自他尊重を大切にしながら交流しているか。 (活動の様子、発言、ワークシートの記述、交流の様子)

4 指導計画

単元名	主な学習活動	指導上の留意点
授業実践1 (特別活動：1時間) よく聞きよく話しながら、人と上手に交流しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・「無関心な聞き方」と『『あいう』を使った聞き方』の違いから、互いに気持ちがよく過ごすにはどんなことに気を付ければよいか考え、実際に体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話しかける役の教員(児童でもよい)、聞き役の教員がロールプレイを児童に見せることで、互いに気持ちよく過ごすにはどんなことに気を付ければよいか考えさせる。 ・いきなり会話を始めず、アイスブレーキングを取り入れて話しやすい雰囲気を作る。
授業実践2 (特別活動：1時間) 自分も相手も大切にして、人と上手に交流しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・シナリオAをもとに互い気持ちがよく過ごすためにどんなことが必要であるか考える。 ・『『さわやかさん』』を使って、シナリオB、Cを問題解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二人の教員で、シナリオAのロールプレイ(本を借りたい子の役、本を貸す子の役)を児童に見せることで、互いに気持ちよく過ごすためにどんなことが必要であるか考えさせる。
授業実践3-1 (特別活動：1時間) 『『あいう』と『さわやかさん』』を使って協力して問題解決することの大切さを学ぼう	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の授業のねらいと学習内容を知る。 ・「何先生がどこに住んでいるか(北小マンション)」を『『あいう』と『さわやかさん』』を用いて協力して解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と上手に交流し、協力することの大切さを体験を通して学ぶために、『『あいう』と『さわやかさん』』を使ことのねらいを明確にしておく。 ・協力して解決できたという成功体験を経験させたいので、時間と様子を見ながらヒントを出してもよい。
授業実践3-2 (教科：算数：3時間) 広さを調べよう	<ul style="list-style-type: none"> ・二人の教員のどちらの土地が広いか考える。 ・児童が自分で作成した問題を友達と交換して解き、学習内 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容が定着するように、作問だけに留めず、問題を友達と交換し合い、解き合いながら、児童同士交流させる場を意図的に設ける。 ・学習内容の定着と共に受容・共感・自他尊重

	容を習熟する。	の態度の育成されるように、クラスの中で『あいう』と『さわやかさん』を上手に使っている児童がいたら賞賛することで、他の児童にも『あいう』と『さわやかさん』を上手に使うことを意識させる。
--	---------	---

VIII 実践の結果と考察

まず、見通し1～3における実践の結果と考察をおこない、次に、Q-Uと受容・共感・自他尊重尺度のデータより考察をおこなった。最後に、実践後の児童の感想から、本研究が、児童にどのような効果や変容をもたらしたかを考察した。

1 受容的・共感的態度の育成について

(見通し1) 児童が「あ：あいてを見て話す、い：いいところを見つけて相手に伝える、う：うなずきながら聞く」という『あいう』を活用することによって、受容的・共感的態度が育成されるであろう。

(1) 授業実践1について

① 活動の実際

無関心な聞き方、次に『あいう』を使った聞き方として、二人の教員のやりとりを児童に見せた。(教師が一人の場合は、相手役として事前に打ち合わせしておいた児童に相手役をお願いしておく) 二つの違いを通して、「相手を見ること」「いいところを見付けること」「うなずきながら話を聞くこと」を児童が気付いた。さらに気付くだけでなく、「無関心な聞き方」と『あいう』を使った聞き方を児童同士で体験したり、児童が互いに交流したりする活動を通して、児童の受容的・共感的態度を育成した。

② 結果と考察

児童の感想として、「自分も相手の顔を見て、相手も自分の顔を見て話してくれてうれしかった」など『あいう』の『あ』に関するもの、「〇〇君が細かく説明してくれた。私が失敗しても笑わなかった」など『あいう』の『い』に関するもの、「うなずいてくれてうれしかった」など『あいう』の『う』に関するものが挙げられた。「とても話しやすくなった」「あいうを使うと気持ちよくなる」「そんなに話をしない人とも仲良くなった」「話が盛り上がった」など『あいう』全般にかかわるものも挙げられた。これらの児童の感想を見ると、児童が『あいう』を活用することによって、受容的・共感的態度が育成されたと考える。

2 自他を尊重する態度の育成について

(見通し2) 児童が「自分のことも相手のことも大切にすることによって、自他を尊重する態度が育成されるであろう。」

(1) 授業実践2について

① 活動の実際

(ア) 二人の教員で、シナリオAのやりとりを『いばりやさん』『えんりょやさん』『さわやかさん』の3パターンでおこない、どのやりとりが互いに気持ちのよいやりとりかを考えさせた。

【シナリオA】

前から読みたかった本を、やっと借りることができました。休み時間に読んでいたら、友達に「その本、貸して」と言われました。

(イ) 次に班→全体という流れで、横入りをされたというシナリオBについての意見交流をおこない、児童が自分たちで『さわやかさん』を使って解決策を考えさせた。

【シナリオB】

連絡帳を先生に見せるために並んでいたら、〇〇くんが自分の前に割り込んできました。

(ウ) 最後に、シナリオBが終わった班は、自分たちで考えるシナリオCに取り組ませた。シナリオCでは、「キーホルダーを貸したら壊されてしまった。相手にどのように言ったらよいか」「学校の帰りにお母さんに早く帰って来てと言われたが、友達に遊びに誘われた。どうすればよいか」「自分が気に入っている色ペンを貸してと言われたが、自分も使いたい時、どうすればよいか」の三つのシナリオが児童から出てきた。

【シナリオC】

自分たちでシナリオを作り、友達と一緒に解決方法を探ってみよう。

② 結果と考察

シナリオBでは、「ごめんね。私は順番を譲ってもいいけど、後ろに並んでいる人もいるから順番で並んだ方がいいよ」「誰も後ろに人が並んでいないから、今回は僕の前に並んでもいいけど、次からは後ろに並んでね」などの解決策が班から出された。それらの意見を学級全体に広げ、意見交流したところ、「なるほど、そういう言い方ならいいかもしれない」などの意見が出た。自分のことも相手のことも大切にするという『さわやかさん』を活用することによって、児童に自他を尊重する態度が育成されたと考える。シナリオCでは、三つのシナリオが児童から出てきた。日常起こりうるこうしたトラブルを解決する力は必要であると考えるので、授業実践2のような場面は、定期的におこなっていく必要がある。

3 児童同士がよりよい人間関係を築くことについて

(見通し3) 児童が『あいう』と『さわやかさん』を活用しながら学び合うことによって、児童同士がよりよい人間関係を築くことができるであろう。

(1) 授業実践3-1について

① 活動の実際

『あいう』と『さわやかさん』を使って人と交流し、協力して解決することの大切さを学ぶというねらいで授業実践をおこなった。授業内容は、班になって、「北小マンション：何先生がどこに住んでいるか」を『あいう』と『さわやかさん』を用いて、解決する班活動である。最後に児童の本時の振り返りの発言を取り入れながら、本時を振り返った(図5)。



図5 『あいう』と『さわやかさん』を活用した授業の振り返りの様子(学級活動)

② 結果と考察

協力して問題解決をするというねらいを明確にしてから授業に入った。単発的に授業をおこなうのではなく、見通し1、見通し2を受けてこの実践3-1があったので、見通しを立てて、計画的・継続的に指導していくことの大切さを改めて確認できた。児童の活動の様子や振り返りの記述を見ると、『あいう』と『さわやかさん』を使って互いの考えを交流し、協力することの大切さが学べ、よりよい人間関係の育成に効果があった。

(2) 授業実践3-2について

① 活動の実際

前時で、正方形と長方形の面積の確認や複合図形の自力解決までおこなった。本時は、班になって自分の解決方法を紹介し合い、その後、全体で確認したり学び合ったりした(図6)。本時の終末では、算数科のまとめと『あいう』『さわやかさん』に関する振り返りをした。次時は、複合図形の習熟と児童が自分で複合図形の問題を作り、児童同士で自分たちが作った問題を解き合う交流活動をした。

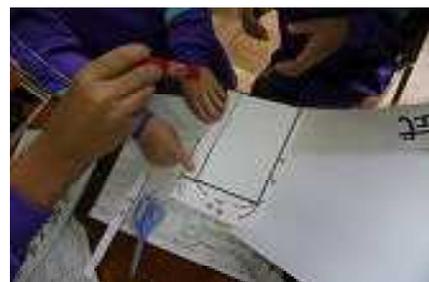


図6 『あいう』と『さわやかさん』を活用し意見交流をしている様子(算数)

② 結果と考察

児童の活動の様子や振り返りの記述、本時にかかわる単元テストの結果を見ると、『あいう』と『さわやかさん』を使って、いろいろな解き方についての意見を交流し、複雑な図形でも正方形や長方形をもとにして面積を求めることができたと考える。算数科の単元の目標達成とよりよい人間関係の育成の両方に本研究の効果があつた。トラブルを恐れるあまり人と交流するのを避けるのではなく、人と交流する中で、相手のよいところを見いだそうとする力を高めたり、トラブルをどう解決すればよいか、いろいろの人の意見を聞いたりする態度が必要である。今回は算数科において実践をおこなったが、他教科でも交流する場を設定し、継続的に定着させていくことが大切である。

4 Q-Uと受容・共感・自他尊重尺度による分析

授業実践前と授業実践後のQ-U（学級満足度尺度）の結果では、侵害行為認知群（1名減）、学級生活不満足群（1名減）、学級生活満足群（1名増）が見られた。全体的な傾向として、プロットが学級生活満足群の方向（右上方向）に動いた（図7）。このことは、受容的・共感的態度の育成と自他を尊重する態度を育成し、児童が受容・共感・自他尊重の態度を生かしながら学び合うことによって、よりよい人間関係を築く学級づくりができることを示している。

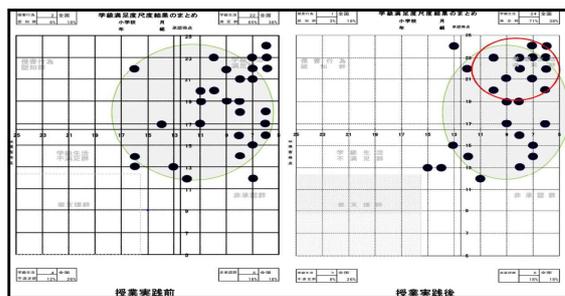


図7 Q-U学級満足度尺度結果

また、授業実践前と授業実践後のQ-U（学校生活意欲プロフィール）の結果では、友人関係、学級の雰囲気、学習意欲のどの項目も伸びが見られた。特に学習意欲が上がったことは、本研究が教科においても、受容・共感・自他尊重を意識して人間関係づくりに取り組むことで、学習意欲の向上につながることを示唆している（図8）。

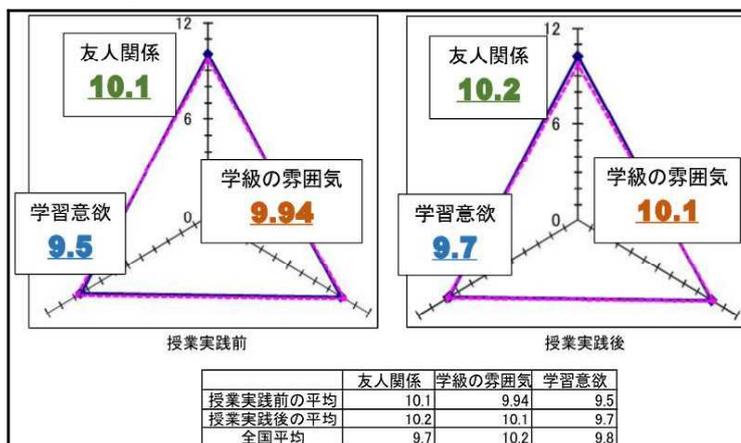


図8 Q-U学校生活意欲プロフィール結果

協力学級担任から「本研究でおこなった教科（算数科）の単元テストの結果を見ると、点数は全国平均を上回り、C基準（支援を要する児童）はいなかった。」との報告を受けた。このことは、本研究が友人関係や学級の雰囲気の向上など、人間関係づくりに関する部分のみならず、学習意欲や学習内容の定着につながることを意味している。

受容・共感・自他尊重尺度の結果では、「相手の顔を見て話をする」「相手のいいところを見付ける」「うなずきながら受容的に相手の話を聞く」

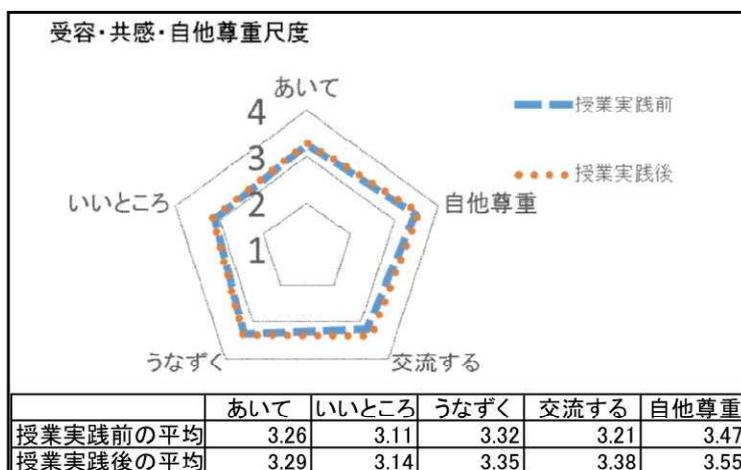


図9 受容・共感・自他尊重尺度結果

「相手に質問したり、感想を言ったりしながら、相手と会話ができる」「相手の話も聞き、自分の考えも言える」のどの項目においても伸びが見られた（図9）。

5 児童の感想から

休み時間に中学生とはじめてしゃべったとき、「あいう」と「さわやかさん」を使ったらうまくはなせるようになった。中学生の子もうなずいてくれたからおたがうれしい気持ちになった。家でテレビのクイズをいっしょにやるときに、学校のときみたいに「これはこうじゃない?」「それもいいけど、こういう答えもあるよ」など「さわやかさん」を使って話せた。

この日、中学生が職場体験に来ており、はじめてしゃべる人にも『あいう』と『さわやかさん』を使って互いにうれしい気持ちになるなど、よりよい人間関係ができたようである。また、家庭においても、「これはこうじゃない?」だけでなく、「それもいいけど」と「こういう答えもあるよ」を上手にを使って、相手の考えも尊重した上で、自分の考えも言うという『さわやかさん』を有効に活用することができた。

休日にバドミントンを友だちとやったときに、ルールでもめそうになったけど、なんとか「さわやかさん、あいう」を使ったので、もめず、すみました。しらない子が、習い事で話しかけてきたので、さわやかさんを使って、話が、スムーズに進んで楽しかったです。

この児童はトラブルが起きそうになったとき、『あいう』と『さわやかさん』を使って上手に解決できたと書いている。また、「話がスムーズに進んだ」だけでなく、「楽しかった」と書いているので、単なるスキルとして、『あいう』と『さわやかさん』を使うのではなく、その先にある喜びや楽しみまで児童が感得できたことが、本研究を単発的ではなく、計画的・継続的に実践した成果である。

「あいう」と「さわやかさん」を習って、ふだんの生活でも使えるようになりました。学校の授業中ではなくなる時もうなずきながら聞くと、いつもの話の倍よく分かる気がしました。

ふだんの生活でも使えるようになったと書いているので、短期間の授業実践ではあったものの、受容・共感・自他尊重の態度がふだんの生活でも意識されたり、活用されたりしていることが確認できた。また、「授業中班になる時」という記述から、今回は教科での実践例として算数科を取り上げたが、他の教科での班活動でも受容・共感・自他尊重の態度が有効に機能した。さらに「うなずきながら聞くと、いつもの話の倍よく分かる気がする」という記述から、人の話をしっかり聞くことで、学習内容も定着するという学力向上にもつながったと考える。

友だちがけんかをしている時に「さわやかさん」と「あいう」を使って仲直りをさせたい。

この児童は、ピアメディエーション（仲間による調停）につながる記述を書いている。『あいう』と『さわやかさん』を周りの友達にまで目を向けて、活用しようとしている様子が伺える。

授業中、先生が話しているとき「あいう」を使えました。

この児童の記述にあるように児童と教師との良好な関係や教師の話をしっかり聞くなどの学級のルールづくりにも有効に本研究が働いたと考える。また、教師の話をしっかり聞くことで、学習内容の理解と定着につながる記述である。

IX 研究の成果と課題

1 成果

- 『あいう』と『さわやかさん』に関する授業を単発的におこなうのではなく、まず、『あいう』で相手の話をよく聞き、次に『さわやかさん』で、自分の言いたいことを上手に話し、最後に『あいう』と『さわやかさん』を授業に生かすという流れで、計画的・継続的に研究を組んだことにより、「受容・共感・自他尊重する態度の向上」や「学習意欲や学習内容の定着」という成果を出せた。
- 『あいう』だけ、『さわやかさん』だけの研究に終わることなく、『あいう』と『さわやかさ

ん』を教科において活用したり、教室掲示したりすることによって、受容・共感・自他尊重する態度の育成が日常的におこなえるようになった。

- Q-Uの学校生活意欲プロフィールの学習意欲の数値が上がったことや算数の単元テストでは、努力を要する児童がいなかったことから、本研究が、学習意欲や学習内容の定着にもつながったと言える。

2 課題

- 集団としての学級づくりについては、成果を出せたが、個別に見ると承認得点は上がったが、侵害得点も上がってしまった児童Aが見られた。また、侵害得点は下がったが、承認得点も下がってしまった児童Bが見られた。
- 今回は算数科において実践をおこなったが、他教科でも交流する場を設定し、学年の発達段階を考慮しながら、系統的・継続的に受容・共感・自他尊重する態度を育成することが必要である。
- 『あいう』と『さわやかさん』を活用した授業を単発的におこなうのではなく、計画的におこなうことが今後も必要である。

X よりよい研究になるための提言

1 研究の課題に対する個別支援についての提言

児童を個別に見ると、承認得点は上がったが、侵害得点も上がってしまった児童Aが見られた。これは、児童同士のかかわり合いが強くなり、意見や考え方が対立したり、トラブルも起きやすくなったためと考える。また、侵害得点は下がったが、承認得点も下がってしまった児童Bが見られた。これは、児童の感想を見ると、人とかかわることにまだ苦手意識があったり、どのように人とかかわっていけばよいか、人とかかわる経験がまだ少なかったりするためだと考える。そこで、このようなタイプの児童A、Bに対する支援策について以下のようにまとめた。

(1) 承認得点は上がったが、侵害得点も上がってしまった児童Aに対する支援策

- 授業実践3-1や授業実践3-2のような、個人ではなく、班や学級全体で何か目標に向かって課題を解決していく学習を多く設定する。その際、学級活動だけでなく、各教科における課題解決型の学習を多く設定する。また、トラブルの原因になった事例を具体的に『あいう』や『さわやかさん』を使って解決するよう、授業実践2にもう一度立ち戻る授業も必要であると考えます。
- 侵害行為というのは、学級のルールづくりをしっかりとこなうことで改善される面が大きい。そこで、ルールをきちんと守ることやトラブルを解決する方法などについて話し合う場面を設けたり、自分たちでルールづくりができるような自治的な活動の場面を設けたりする。「自分たちの学級をよりよくする」という目標を明確にして、そのためにどのような活動をおこなったらよいかなどを考えた上で児童に計画を立てさせる。また、定期的に振り返る場面を設ける。
- 児童同士で何かトラブルがあっても、まず教師は「自分たちはどうしたい？どうなったらいいと思う？」と教育相談的かかわりをもつようにする。児童がどうしたらよいか迷っている場合は、教師から一方的に方法を示すのではなく、教師がいくつかの案を提示したり、その中から選択させたりするようにし、自分たちで取り組んでいるという意識をもたせる。
- スモールステップで、簡単なことから守るべきことをしっかり守らせたり、ルールの目的をきちんと説明したりする。「ちゃんとやっておきなさい」「やっておくようにいったはずだよ」など《言いっ放し》や《指示したはず》に留めず、朝の過ごし方や日直、給食の仕事、係活動の内容や手順を教室掲示したり、黒板に書き出したりすることで、教師がいなくても自分たちでルールが守れるようにする。

(2) 得点は下がったが、承認得点も下がってしまった児童Bに対する支援策

- トラブルを恐れるあまり人と交流するのを避けるのではなく、人とかかわり合いをもつ中で、相手のよいところを見い出したり、自己有用感や自己肯定感が高められるような授業実践を多くする。例えば、児童同士の認め合いの場を設定し、関係性の広がりを目指す授業として、「学級

の仲間一人一人のよいところを書いたメッセージを交換し合う活動をする」「掃除の班や生活班のメンバーへ《ありがとうのメッセージ》カードを送る」「休憩時間の遊びに関する好きなことや得意なことを紹介し合い、実際に遊びの交流会をもつ」などの授業を意図的に設定する。

- 給食の時間に「体育の学習のチーム」「誕生日（1，2月生まれ同士など）」「〇〇が好きな人」などグループを組み、学級に自己存在感や所属感をもてるよう、一人になる児童がないように配慮して、いろいろなグループで交流する場を設ける。

2 受容・共感・自他尊重する態度の育成を系統的・継続的に指導していくための提言

(1) 『あいう』『さわやかさん』のネーミングについて

『あいう』や『さわやかさん』のネーミングについては、児童に受容・共感・自他尊重する態度が日常的に育成されるように、分かりやすいネーミングとして考えた。高学年であれば、『あいう』にさらに『え：えがおで相手とかかわろう』『お：おたがいが幸せな気分になるようにかかわろう』などを付け加えてもよい。また、学級で話し合っ『あいう』に変わるネーミングを付けてもよい。さらに、学校全体で『あいう』をスローガンのように使ってもよい。中学校においては、例えば担任の名前を用いて『あいう』に変わるスローガンを用いてもよい。

(2) 受容・共感・自他尊重する態度の系統的・継続的指導について

小学校低学年から計画的に受容・共感・自他尊重が育成されることが大切であると考え、小学校学習指導要領から本研究に関連する部分を表でまとめた（表1）。この表は、本研究の「聞く・話す・交流する」に関わる部分を国語科の「話すこと・聞くこと」や「言語活動」、特別活動の「学級活動の内容」、道徳の「目標及び内容」から抜粋している。

表1 本研究と小学校学習指導要領との関連

	小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なことや経験したことから話題を決める ・事物の説明や経験の報告をしたり、感想を述べたりする ・グループ全体で話し合っ考えを一つにまとめる ・自分の思いや考えをまとめ、発表し合う 	<ul style="list-style-type: none"> ・関心のあることなどから話題を決める ・学級全体で話し合っ考えをまとめたり、意見を述べ合ったりする ・考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付く ・相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話す ・互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせる ・適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる ・話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる ・互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う ・資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりする ・調べたことやまとめたことについて、討論などをする ・自分の考えを広げたり深めたりする
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と仲良くし、助け合う ・気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて明るく接する ・学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくする 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と互いに理解し信頼し、助け合う ・過ちは素直に改め、正直に明るい心で元気よく生活する ・集団でままりを守ったり、身近な人々と協力し、支え合う態度を身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに信頼し、学び合っ友情を深める ・謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切ににする ・誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場になって親切にする ・人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる ・相手の立場を理解し支え合う
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・仲良く助け合い学級生活を楽しくする 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力し合っ楽しい学級生活をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼し支え合っ楽しく豊かな学級や学校の生活をつくる

表1をまとめるとキーワードとして、小学校低学年では、「相手に」「自分の思いを伝える」「自分が中心にある中での人とのかかわり」、小学校中学年では、「小グループの人に」「相手を意識して自分の思いを伝える」「身近な人とのかかわり」、小学校高学年では、「多くの人に」「相手の考えを汲

みながら自分の思いを伝える」「広い範囲の人とのかかわり（多様性）」が挙げられる。これを踏まえて、児童の発達段階を考慮し、本研究の受容・共感・自他尊重する態度の育成にかかわる表を作成した（表2）。

この表2を児童の発達段階に応じて、個別支援や集団づくりにおいて活用する。個別支援では、児童一人一人、表の中のどのようなことが身に付いているか確認したり、次の目標設定の指標としたりする。集団づくりでは、学級経営や学年経営、異学年交流において、よりよい人間関係づくりができるように、現時点でどのようなことが集団として身に付いているか確認したり、次の目標設定としてどのような集団づくりをしていくかという指標として、この表を活用していく。ある学年、ある学級だけで取り組むのではなく、小学校6年間を見据えた系統的・継続的な受容・共感・自他尊重の育成が大事である。

表2 受容・共感・自他尊重の系統的・継続的育成

『あいう』 『さわやかさん』		小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年
聞く		—	—	話し手をタイミングよく交代することができる
		—	—	相手に話を合わせることができる
		—	話の内容に応じた表情で聞くことができる	
		相手の話を聞いた後、自分なりの言葉で感想などを言うことができる	相手に感想やよかったところなどを言いながら聞くことができる	
うなずきながら相手を見て聞くことができる				
話す		相手の顔を見て話すことができる	相手の目を見て話すことができる	相手の表情を見て話すことができる
		自分の考えを相手に伝えることができる	自分の考えを相手の気持ちを考えながら伝えることができる	
交流する	話し合う	賛成や反対意見を表明することができる	賛成や反対意見に自分の考えを交えて表明することができる	相手の気持ちを考えながら賛成や反対意見に自分の考えを交えて表明することができる
	質問する	「はい」または「いいえ」のひとことで答えられるような質問をすることができる	自分が知りたいことを「オープンエンドな聞き方」(※)で、質問をすることができる	相手が話をしやすいように「オープンエンドな聞き方」(※)で、質問をすることができる
	関係を つくる	係りの仕事などを協力してできる	場面や相手に応じて、係りの仕事などを自分から提案したり、相談したりしながら協力してできる	
		「ありがとう」「ごめんなさい」「いいよ」などが言える	「ありがとう」「ごめんなさい」「いいよ」などが自発的に言える	
	理由をつけて返答することができる	理由をつけて相手の考えを受け止めながら返答することができる		

※「オープンエンドな聞き方」とは、「はい」や「いいえ」だけで答えられる質問ではなく、相互に会話ができる質問の仕方という

〈参考文献〉

- ・『小学校学習指導要領』 文部科学省（平成20年告示）
- ・『いじめの防止のための措置』 文部科学省（2013）
- ・『児童生徒の友人関係に関する研究』 国立教育政策研究所（2001）
- ・赤坂 真二 著 『学級を最高のチームにする極意』 明治図書（2013）
- ・河村 茂雄 著 『学級集団づくりゼロの段階』 図書文化（2012）
- ・佐伯 胖／藤田 英典／佐藤 学 編 『学び合う共同体』（1996）
- ・西川 純 編 『学び合いスタートブック』 学陽書房（2012）
- ・深谷 昌志 他 『学級経営に関する教育心理学研究』（2001）
- ・諸富 祥彦 編集代表 『学級づくりと授業に生かすカウンセリング』 ぎょうせい（2012）

〈研究協力校〉 渋川市立渋川北小学校

〈研究協力者〉 木暮 寛幸 河原 睦美 生方 寛樹

〈担当指導主事〉 瀧川 豊宏 國峯 智

実践事例① 《見通し1：学級活動》

1 題材名 よく聞き、よく話しながら、人と上手にかかわろう

2 本時の展開

(1) ねらい

「無関心な聞き方」と『あいう』を使った聞き方の対比から、真剣に聞くこと、聞いてもらうことを体験しそのよさを実感することで、児童の受容的・共感的態度を育成する。

(2) 準備 事前に自分の趣味などが書かれたシート、振り返りシート

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
<p>1 今日の授業のねらいを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師のモデル提示（「無関心な聞き方」）を見る。 次に教師のモデル提示（K先生、S先生のやりとり：『あいう』を使った聞き方）を見る。 「無関心な聞き方」と『あいう』を使った聞き方の違いから互いに気持ちよく過ごすにはどうすればよいか意見を交流する。 <div style="border: 2px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">自分の考えを述べる場面 『あいう』を生かす場面</p> </div> <div style="border: 2px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">相手の考えを聞く場面 『あいう』を生かす場面</p> </div> <div style="border: 2px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">相手と自分の考えを交流する場面 『あいう』を生かす場面</p> </div> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> しっかり相手の方を見て聞いたりうなずいたりすると安心する。 「それいいね」「ぼくもやってみたい」「それ楽しそうだね」「手をたたいて喜ぶ」「笑顔で聞く」などの言葉がけやしぐさがあるとお互いに気持ちよく過ごせそう。 </div>	<p>15分</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活動がイメージできるように「無関心な聞き方」と『あいう』を使った聞き方のモデルを教師が実際に示す。 K先生：話しかける役、S先生：聞き役（児童に役をやらせてもよい。） 「無関心な聞き方」では、無視や相手を否定するようなことをわざと聞き役が相手の教師に言う。 『あいう』を使った聞き方では、「それいいね」や「ぼくもやってみたい」などの言葉掛けや「手をたたいて喜ぶ」「笑顔で聞く」などのしぐさを受容的・共感的な態度で教師が意図的に行う。 「無関心な聞き方」と『あいう』を使った聞き方について感想をK先生や児童に聞く中で、互いに気持ちよく過ごすにはどうすればいいか意見交流の場を設ける。 教師が感想を言う場合は、相手の教師のいいところを言うなど、『あいう』について考える場面につなげるようにする。 <div data-bbox="842 1370 1321 1731" data-label="Image"> </div>
<p>2 自分の趣味などが書かれたシートを用いて、「無関心な聞き方」と『あいう』を使った聞き方を体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「無関心な聞き方」を二人組みで体験する。 ①右の人が、自分の趣味などを話す。 ②左の人が、「無関心な聞き方」を体験する。 	<p>20分</p>	<ul style="list-style-type: none"> 質問なども自由にしてよいが、質問している人がいつの間にか自分の事ばかりしゃべることのないよう『あいう』と今日の学習のねらいを必要に応じて確認する。

③右と左の役割を交代する。

・『あいう』を使った聞き方」を体験する前に気持ちをほぐして話しやすい雰囲気にするためにアイスブレイキングをおこなう。(お絵かきスクイグル)

・『あいう』を使った聞き方」を二人組みで体験する。

①右の人が、自分の趣味などを話す。

②左の人が、『あいう』を使った聞き方」を体験する。

③右と左の役割を交代する。

児童の反応

- ・『あいう』を使って真剣に聞いてもらえると気持ちがいいな。
- ・何だか仲良くなった気がする。
- ・もう少し〇〇の時、言い方を変えれば良かったな

**自分の考えを述べる場面
『あいう』を生かす場面**

**相手の考えを聞く場面
『あいう』を生かす場面**

**相手と自分の考えを交流する場面
『あいう』を生かす場面**

3 今日学習の振り返りを行い、次時の授業内容(『さわやかさん』を使った授業)を知る。

10分

・児童の振り返りの発言を取り入れながら、本時のまとめをする。

◎なるほどと思った意見については、書き加えたり、自分の意見を修正したりしてよいことを伝える。

◎いきなり会話を始めず、アイスブレイキングを取り入れて話しやすい雰囲気をつくる。アイスブレイキングも『あいう』を用いた大事な活動であることを伝える。

◎うまく活動ができていない児童には、自分の趣味などは、全部言わなくても『あいう』の大切さが分かったり、使えるようになったり、今後意識して使えるようになったりしていけばよいことを伝える。

◇今日の学習のねらいに沿って活動している。

「『あいう』を使って、受容的・共感的態度で人と接しようとしているか。(活動の様子、発言、ワークシートの記述)」

はばたく群馬の教育プランとの関わり
○「聞き合い」「分かり合い」「発言を受け入れる」「自分の言いたいことを適切に表現すること」



(4) 板書計画

『あいう』を使って人と上手に関わろう

・体けんの感そうやあいてのいいところ

今日学んだことなど

-
-
-

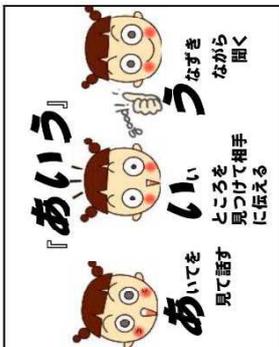
「なるほど」「すごい」「いっしょにやろう」「いいね」「大丈夫だよ」「笑顔で聞く」「手をたたいて喜ぶ」



教室掲示



『あいう』を使って人と上手に関わろう
 4年()組()番 名前()



どんな場面で、どんなふうに『あいう』を使えたか、ふりかえって書いてみよう。(自分のことや友達のこと)

(友達の発表を聞いていいなと思ったことは、どんどん書いておくといいよ。)

①数字に○をつけて下さい。

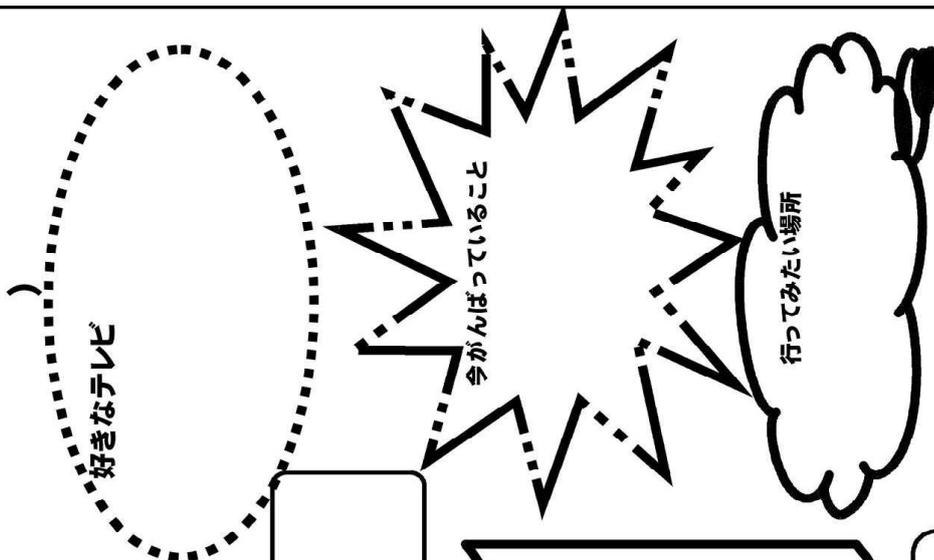
A. あいての顔を見て会話ができましたか。	1. よくできました	2. できた	3. あまりできなかった	4. まったくできなかった
B. あいてのいいところを見つけましたか。	1. よくできました	2. できた	3. あまりできなかった	4. まったくできなかった
C. うなずきながら会話ができましたか。	1. よくできました	2. できた	3. あまりできなかった	4. まったくできなかった
D. あいてに質問したり、感想を言ったりしながら会話ができましたか。	1. よくできました	2. できた	3. あまりできなかった	4. まったくできなかった

4年 名前()



好きな本
 (マンガ、アニメ、小説など)

行ってみよう



よくあそぶあそび

その他、話すネタになりそうなもの
 ()

たくさん友達と話そう!!

実践事例② 《見通し2：学級活動》

1 題材名 自分も相手も大切にして、人と上手にかかわろう

2 本時の展開

(1) ねらい

「自分も他の人も大切にする」という『さわやかさん』を活用することによって、自他を尊重する態度を育成する。

(2) 準備 ワークシート、振り返りシート

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
1 前時の『あいう』の振り返りと今日の学習内容を知る。	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の『あいう』を振り返る。 ・K先生とS先生で、シナリオAのモデルを示す(ロールプレイ：本を借りたい子をK先生、本を貸す子をS先生の見本を示す)ことで、どのやりとりが互いに気持ちよく過ごせるか、ハンドサインを児童に使わせて考えさせる。 ①『いばりやさん(やだよそんなの)』 ②『えんりょやさん(い、いいよ)』 ③『さわやかさん』(言い方の例は、ワークシート参照)』
2 『さわやかさん』を使って、シナリオB、C(シナリオCは児童が考える)を解決してみる。(ワークシート参照) <ul style="list-style-type: none"> ・まずは自分の考えを書く。(5分) <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 自分の考えを述べる場面 『あいう』と『さわやかさん』を生かす場面 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えを聞く。(10分) <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 相手の考えを聞く場面 『あいう』と『さわやかさん』を生かす場面 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・班で意見交流をする。(15分) <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 相手と自分の考えを交流する場面 『あいう』と『さわやかさん』を生かす場面 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 児童の反応 《シナリオB》 なにか急いでいるの?でも、みんな並んで待っているから、後ろに並んで待とう。ありがとね。 《シナリオC》 今、気になっている○○のことや、以前、気になっていた△△のことについてみんなの考えを聞きたいな。 </div>	30分	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えが書けた児童は、シナリオCを自分で作るよう伝える。 ・クラスの中で『あいう』と『さわやかさん』を上手に使っている児童がいたら、賞賛することによって、他の児童にも『あいう』と『さわやかさん』を意識させる。 ・はやく書けた班は、実際にやってみて、本当に『さわやかさん』になっているかどうか、意見交流するよう伝える。 ◎自分の意見が言いづらそうな児童には、みんなの意見を聞いた感想だけでも伝えるとよいことを促す。 ◇『さわやかさん』を使って自他共に尊重する態度で人と接しようとしているか。 <p style="text-align: center;">(活動の様子、発言、ワークシートの記述)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> はばたく群馬の教育プランとの関わり ○「聞き合い」「分かり合い」「発言を受け入れる」 「自分の言いたいことを適切に表現すること」 </div>
3 今日の学習の振り返りを行い、次時の授業内容(『あいう』と『さわやかさん』を他の授業《教科》でも意識して使う)を知る。	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の振り返りの発言を取り入れながら、本時のまとめをする。 ◎なるほどと思った意見については、書き加えたり、自分の意見を修正したりしてよいことを伝える。

(4) 板書計画

教室掲示



『さわやかさん』を使って人と上手に関わろう
(自分も相手も大切に)

『さわやかさん』

「自分も相手も大切に」

『あいう』

あいてを 見て話す
いい ところを 見つけて相手に伝える
う なずきながら 聞く

『あいう』も
わすれずに

「なるほど」「すごい」「いっしょにやろう」「いいね」「大丈夫だよ」「笑顔で聞く」「手をたたいて喜ぶ」

今日学んだことや感そう

『さわやかさん』を使って人と上手に関わろう 4年()組()番 名前()		
シナリオ	①「自分の考え」や「②友達への考え」 *なるほどと思ったらメモをとろう!!	③意見交流(班やクラスの考え) *なるほどと思ったらメモをとろう!!
<p>A. 前から読みたかった本を、やっとかき終ることができました。休み時間に読んでいたら、友だちに「その本、かして。」と言われました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「やっとかき終られた本なので、今読みたいんだ。後でかすね。」 ・「ごめんねをつけるといいと思う。」 ・「後でをいつになるか伝えると相手が安心すると思う。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「やっとかき終られた本なので、今読みたいんだ。ごめんね。次の昼休みにかしたいんだけどそれでいい？」 ・「かき終る方も「今読みたい」など言わず、相手の気持ちを考えることが大切だと思います。」
<p>B. 連らくちょうを先生に見せるためにならんでいたら、〇〇くんが自分の前にわりこんできました。</p>		
<p>Bが終わったら班で、やってみよう。</p>		
<p>C. 班でシナリオを書いて友達といっしょに解決方法をさがってみよう。</p>		
(シナリオ)	(解決方法)	

『さわやかさん』を使って人と上手に関わろう
4年()組()番名前()



『さわやかさん』

「自分も相手も大切に」

『あいう』

あ いてを 見て話す

い ところを 回ついで相手に伝える

う なぎさ ながら 聞く

↑ あいうも忘れずに

①数字に○をつけて下さい。 A. あいての顔を見て会話ができましたか。 B. あいてのいいところを見つけてきましたか。 C. うなぎさなから会話ができましたか。 D. あいてに質問したり、感想を言ったりしながら会話ができましたか。 E. 自分も相手も大事にする『さわやかさん』を使って会話ができましたか。	1. よくできました 1. よくできました 1. よくできました 1. よくできました 1. よくできました	2. できた 2. できた 2. できた 2. できた 2. できた	3. あまりできなかった 3. あまりできなかった 3. あまりできなかった 3. あまりできなかった 3. あまりできなかった	4. まったくできなかった 4. まったくできなかった 4. まったくできなかった 4. まったくできなかった 4. まったくできなかった
---	--	--	--	---

② どんな場面で、どんなふうにも『あいう』や『さわやかさん』を使ったか
ふりかえって書いてみよう。(自分のことと友達のこと)

実践事例③－1 《見通し3：学級活動》

1 題材名 『あいう』と『さわやかさん』を使って互いの考えを交流し、協力することの大切さを学ぼう

2 本時の展開

(1) ねらい

『あいう』と『さわやかさん』を使って（受容・共感・自他尊重を大切にしながら）互いの考えを上手に交流する。

(2) 準備 振り返りシート、北小マンション ①マンションの白紙図…一グループ一枚

②情報カード) 一グループ一セット ③約束事 (ポイントだけ示す：拡大掲示)

④解答 (拡大掲示)

*実際に北小の先生方の名前を入れてもよい

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
1 今日の授業のねらいと学習内容を知る。	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習は、人と上手に交流し、協力することの大切さを体験を通して学ぶために、『あいう』と『さわやかさん』を使っておこなうというねらいを明確にしておく。
2 《北小マンション：何先生がどこに住んでいるか》を『あいう』と『さわやかさん』を用いながら行う。	30分	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が意見を出しやすいように4～5人の班で活動させる。 ・何も書き入れてないマンションの図とカード、振り返りシートを取りにくるよう指示する。 ・活動の仕方と約束を一つ一つ順を追って説明する。 <p style="text-align: right;">(ルールの遵守と規範意識の徹底)</p>

(課題)
北小の先生が住んでいるマンションがあるとします。どの部屋に、どの先生が住んでいるか、カードに書かれた情報をもとにマンションの図に先生の名前を書き入れましょう。『あいう』と『さわやかさん』を上手に使って協力してマンションの図を完成させることが今日の学習のねらいです。

【約束】
①カードを表にして、カードの枚数が大体同じになるようにみんなに配ります。
②自分がもらったカードを人に見せながら読みあげます。人に見せてもいいですが、必ず自分で読みあげましょう。
③グループの人に質問したり、相談したりするのは自由です。『あいう』と『さわやかさん』を上手に使って交流して下さい。
④時間は、20分間です。5分前と3分前になったら知らせます。解けなかったとしても、一生懸命取り組み、『あいう』と『さわやかさん』の大切さが分かってくればOKです。ワークシートに答えが書けた班は、机をもとにもどし、後で全体で答え合わせをするので、振り返りシートを書いて今日の学習の振り返りをして下さい。

・クラスの中で『あいう』と『さわやかさん』を上手に使っている児童がいたら、賞賛することによって、他の児童にも『あいう』と『さわやかさん』を上手に使うことを意識させる。

相手の考えを聞く場面
『あいう』と『さわやかさん』を生かす場面

相手と自分の考えを交流する場面
『あいう』と『さわやかさん』を生かす場面

はばたく群馬の教育プランとの関わり
○「聞き合い」「分かり合い」「発言を受け入れる」
「自分の言いたいことを適切に表現すること」

・『あいう』と『さわやかさん』を上手に使うと、みんながまとまって、話しやすいな。

◎なるべく成功体験をさせてあげたいので、時間を見ながらヒントを出してあげてもよい。

◇今日の学習のねらいに沿って活動している。

ねらい
『あいう』と『さわやかさん』を使って、受容・共感・自他尊重を大切にしながら交流する。

学習指導要領
中学年の重点目標：「協力し合おうとする人間関係」の育成
【共通事項：(2)のウ】

3 振り返り

10分
・児童の振り返りの発言を取り入れながら、本時のまとめをする。
(『あいう』と『さわやかさん』をどんな場面で、どのように活用出来たか)
◎なるほどと思った意見については、書き加えたり、自分の意見を修正したりしてよいことを伝える。

(4) 板書計画

教室掲示



「なるほど」「すごい」「いっしょにやろう」「いいね」「大丈夫だよ」
「笑顔で聞く」
「手をたたいて喜ぶ」



『あいう』と『さわやかさん』を使って、協力することの大切さを学ぼう

北小マンション()はん

「く」 先生	「し」 先生	「き」 先生	エレベーター	「う」 先生
「さ」 先生	「え」 先生	「け」 先生		「い」 先生
「か」 先生	「お」 先生	「あ」 先生		「こ」 先生

児童の発表を板書する

今日学んだこと

- ・『あいう』と『さわやかさん』を上手にを使って、自分の言いたいことをきちんと伝えたり、相手を大切にすることが分かりました。
- ・『あいう』と『さわやかさん』を上手に使うとみんながまとまって、話しやすかった。 など

【情報カード】

1. 「か」先生は、1階の一番はじに住んでいる	2. 「お」先生の両どなりには、「か」先生、「あ」先生が住んでいる
3. 「き」先生は、エレベーターの左どなりに住んでいる	4. 「く」先生、「え」先生、「あ」先生の部屋はななめに一直線にならんでいる
5. 「け」先生と「い」先生はエレベーターをはさんでどなり同士である	6. 「う」先生と「く」先生は、同じ階に住んでいる
7. 「い」先生の部屋は「こ」先生と「う」先生の上下ではさまれている	8. 「さ」先生の右ななめ上に「し」先生が住んでいる
9. 「お」先生の1つ上に「え」先生が住んでいる	10. 「し」先生と「き」先生は、どなり同士である
11. 「け」先生は、「さ」先生の2つ右に住んでいる	12. 「く」先生と「さ」先生と「か」先生は、同じ列(たて)に住んでいる
13. 「さ」先生は、エレベーターからはなれたところに住んでいる	14. 「う」先生は、「か」先生の部屋から一番はなれた部屋に住んでいる

『あいう』と『さわやかさん』を使って、協力することの大切さを学ぼう
4年()組()番 名前()



①数字に○をつけて下さい。

A. あいでの顔を見て会話ができましたか。	1. よくできた	2. できた	3. あまりできなかった	4. まったくできなかった
B. あいてのいいところを見つけましたか。	1. よくできた	2. できた	3. あまりできなかった	4. まったくできなかった
C. うなずきながら会話できましたか。	1. よくできた	2. できた	3. あまりできなかった	4. まったくできなかった
D. あいてに質問したり、感想を言ったりしながら会話ができましたか。	1. よくできた	2. できた	3. あまりできなかった	4. まったくできなかった
E. 自分も相手も大事にする『さわやかさん』を使って会話ができましたか。	1. よくできた	2. できた	3. あまりできなかった	4. まったくできなかった

②
どんな場面で、どんなふうに『あいう』と『さわやかさん』を使ったか
ふりかえって書いてみよう。(自分のことや友達のこと)

実践授業③-2 《見通し3：教科：算数科》

単元名 広さを調べよう

- ねらい 『あいう』と『さわやかさん』を使って、いろいろな解き方についての意見を交流し、複雑な図形でも正方形や長方形をもとにして面積を求めることができる。
- 準備 ワークシート、振り返りシート、面積図（掲示用拡大図と発表用）、操作活動ができるように課題の図が書かれた画用紙を各班に数枚、ヒントカード、各班に発表用のマジックペン
- 展開

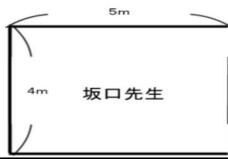
学習活動 予想される児童の反応 ◇評価	時間	指導上の留意点及び支援・評価
<p>1 学習課題をつかむ。</p> <p>【か題】 K先生と坂口先生が土地を分けることにしました。どちらの先生の土地が広いでしょうか。</p> <p>・どちらの先生の土地の方が広いか予想する。</p> <p>2 坂口先生の土地の広さを求める。</p> <p>・坂口先生の方が横が5mで、3mより長いから広そ</p>	<p>前時 45分</p>	

うだぞ。

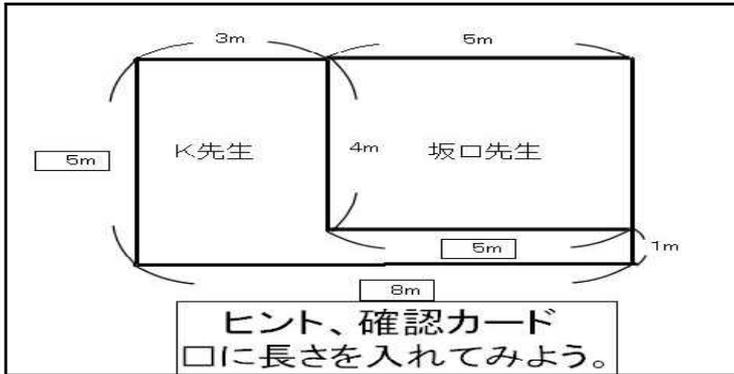
- ・ K先生の方が横に伸びているから広そうだぞ。

【坂口先生】

坂口先生の土地の広さを求めましょう。



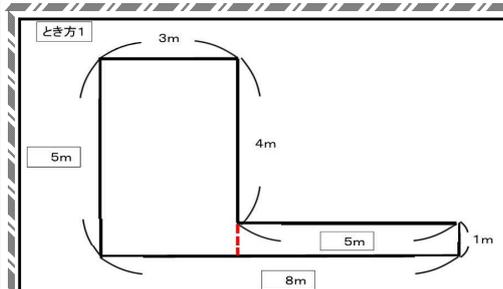
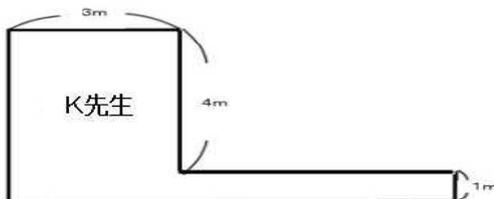
式 $4 \times 5 = 20$
答え 20m^2



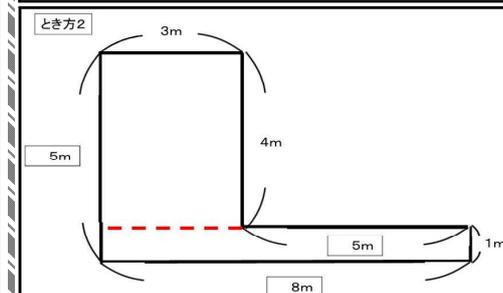
- 1 K先生（L字型の面積）を求める。
(個人→班→学級全体)

【K先生】

K先生の土地の広さをいろいろな方法で求めましょう。



式 $5 \times 3 + 1 \times 5$
 $= 15 + 5$
 $= 20$
答え 20m^2



式 $4 \times 3 + 1 \times 8$
 $= 12 + 8$
 $= 20$
答え 20m^2

- ・ 既習事項の確認（長方形の面積の出し方）になるので、坂口先生の土地を先に扱う。

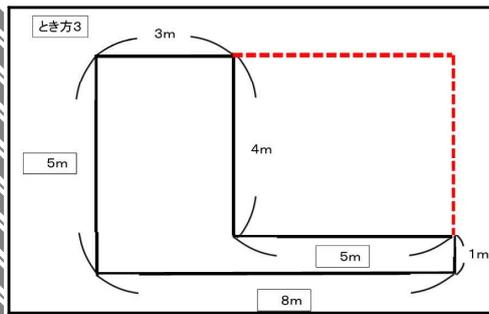
- ・ ヒント、確認カード
L字型の辺の長さが書き込める穴埋めのカードを配る。

本時 4 5 分

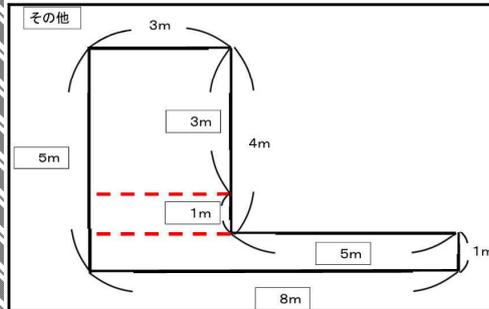
- ・ 今日の学習は、『あいう』と『さわやかさん』を使って、【か題】をみんなで協力して解決することを伝える。
- ・ 一つ考えられた児童は、他にも解き方がないか考えるよう指示する。
- ・ その他の考え方（細かく分けるような考え方など）が出てきたら、賞賛した上で、「もっと分かりやすく、簡潔に解決する方法はないか」という視点で考えさせる。
- ・ クラスの中で『あいう』と『さわやかさん』を上手に使っている児童がいたら、賞賛することによって、他の児童にも『あいう』と『さわやかさん』を上手に使うことを意識させる。

【賞賛する観点参照】

- ・ 児童が考えた解法の中から、黒板に図だけが書かれたものや式だけが書かれたものを掲示することで、ヒントにしたり、自分の考えが正しいかどうか確認させたりする。

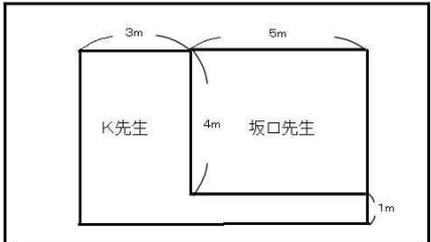


式 $5 \times 8 - 4 \times 3$
 $= 40 - 12$
 $= 28$
 答え 28 m^2



《ヒント発問①》
 今まで習った図形の中で、面積の求め方を知っている図形は、何ですか。(既習事項から解き方を探る)
 [正方形、長方形]
 [正方形・・・一辺×一辺、長方形・・・たて×横]

《ヒント発問②》
 K先生の土地の面積を求める問題で、とき方3の引いて考える方法が出てこない場合は下のような発問をする。



ヒント発問②
 上の図の中に長方形はいくつかくれているでしょう。

**相手と自分の考えを交流する場面
 『あいう』と『さわやかさん』を生かす場面**

はばたく群馬の教育プランとの関わり
 ○「聞き合い」「分かり合い」「発言を受け入れる」「自分の言いたいことを適切に表現する」
 ○「比較・検討(深める活動)を上手に行うために、それぞれの方法や考えを類型する」

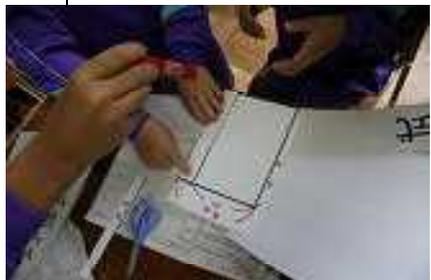
- ◇正方形や長方形に分けて考えたり、正方形や長方形を使って全体から一部を引いて考えたりしている。
- ◇『あいう』と『さわやかさん』を使って交流している。(ワークシート・ハンドサイン・発表・交流の様子)

3 学習のまとめと振り返りをする。
 ・本時のまとめをする。

(本時のまとめ)
 正方形や長方形で考えて面積を求める。

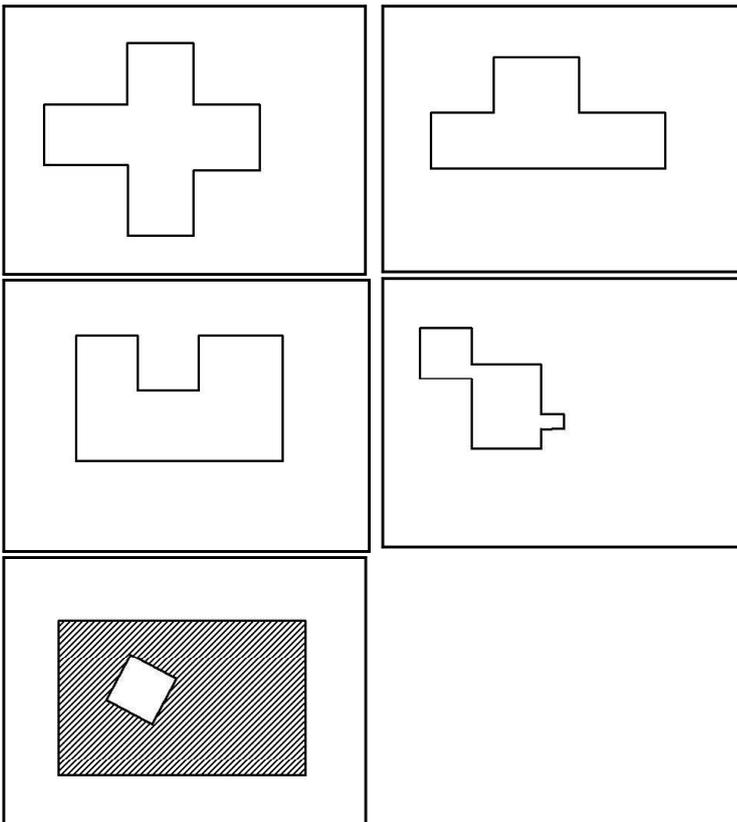
・『あいう』と『さわやかさん』に関する本時の自分自身の振り返りをする。

- ・『あいう』と『さわやかさん』を使うと話し合いがスムーズにいく。
- ・気分良く自分の考えをみんなに説明できたり、友達の説明を聞くことができた。
- ・解き方を班の子に説明する場面で、相手の顔を見て真剣に聞くことができた。



・どの考えも《分けて考える方法》や《引いて考える方法》に帰着し、《正方形や長方形にして考える》というまとめにつながることを確認する。

1 さまざまな複合図形の面積を求める。



- ・正方形や長方形を組み合わせた複合図形を作問し、まずは、自分で解いてみる。(問題に必要な長さを書き入れ、式と答えを求める。)
- ・児童が自分で作問した問題を友達と交換して解き、演習問題として習熟する。

**相手と自分の考えを交流する場面
『あいう』と『さわやかさん』を生かす場面**

- はばたく群馬の教育プランとの関わり**
- 「聞き合い」「分かり合い」「発言を受け入れる」
「自分の言いたいことを適切に表現する」

次時
4 5
分

・どの複合図形も《分けて考える方法(移動させる方法を含む)》または、《引いて考える方法》に帰着し、どちらも【正方形や長方形で考えて面積を求める】ことにつながることを演習問題を通して習熟させる。

- ・児童自身が作問することによって「正方形や長方形をもとにすること」「正方形や長方形の辺の長さが分からないと解けないこと」を感得させる。
- ・算数科としての学習内容の習熟はもちろん、学び合いや本研究の交流する場面でも、『あいう』と『さわやかさん』を上手に使うことによって学び合うよう声かけをする。
- ・クラスの中で『あいう』と『さわやかさん』を上手に使っている児童がいたら、賞賛することによって、他の児童にも『あいう』と『さわやかさん』を上手に使うことを意識させる。

【賞賛する観点参照】

【賞賛する観点】

算数専科、TT、四学年の先生方へ

*次のような場面(『あいう』や『さわやかさん』を使っている場面)が見られたら、わざと周りに聞こえるように児童を褒めてあげてください。

- ・相手をみて真剣に聞いている場面が見られた時(『あいう』の『あ』の場面)
- ・「それいいね」など、相手のいい所を見付けている場面が見られた時(『あいう』の『い』の場面)
- ・うなずきながら相手の話を真剣に聞いている場面が見られた時(『あいう』の『う』の場面)

【『さわやかさん』などの場面が見られた場合】

- ・児童同士が認め合ったり、賞賛し合ったりしている場面が見られた時
- ・間違った発言をしても責めずにやさしく接する場面が見られた時

- ・「そうそれでいいよ」「あっ、ぼく（わたし）と同じだ」と受容や共感している場面が見られた時
- ・「〇〇君先にやっていいよ。次、私にやらせて」など、自他尊重する態度が見られた時 など

板書計画

『さわやかさん』

『あいう』

「なるほど」「すごい」「いっしょにやろう」「いいね」「大丈夫だよ」
「笑顔で聞く」
「手をたたいて喜ぶ」

教室掲示

今日の学習 どちらの土地の面積が広いか『あいう』と『さわやかさん』を上手に使ってみんなで解決してみよう

【か】題
木暮先生と坂口先生が土地を分けることにしました。どちらの先生の土地が広いでしょうか。

坂口先生 坂口先生の土地の広さを求めましょう。

式 $4 \times 5 = 20$
答え 20m^2

A

式 $3 \times 3 + 1 \times 5 = 15 + 5 = 20$ 答え 20m^2

B

式 $3 \times 3 + 1 \times 8 = 12 + 8 = 20$ 答え 20m^2

C

式 $6 \times 6 - 4 \times 5 = 40 - 20 = 20$ 答え 20m^2

木暮先生と坂口先生、どちらが広いか？
(答え 同じ)

K先生 答え 20m^2

今まで習った図形の種類の出し方【正方形】【長方形】

【正方形】
一辺×一辺

【長方形】
たて×横

まとめ
正方形や長方形をもとにして面積を求めるとよい。

算数 4年 () 組 () 番
名前 ()
今日の学習
どちらの土地の面積が広いか『あいう』と『さわやかさん』を上手に使ってみんなで解決してみよう

【か】題
K先生と坂口先生が土地を分けることにしました。どちらの先生の土地が広いでしょうか。

坂口先生 坂口先生の土地の広さを求めましょう。

式 答え

K先生 土地の広さをいろいろな方法で求めましょう。

K先生と坂口先生、どちらが広いか？
()

図	式	答え

まとめ